

# 長期欠席と不登校等の現状

## (1) 長期欠席と不登校について

### ① 長期欠席

文部科学省は、児童生徒の生徒指導上の諸課題の現状を把握し、今後の不登校等に関する施策を推進することを目的として「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」を実施しています。

本調査の中で文部科学省は、当該年度間に連続又は断続して30日以上欠席した児童生徒数を「病気」「経済的理由」「不登校」「その他」の4つに分け、「理由別長期欠席者数（不登校等）」として公表しています。

### ② 不登校

上記調査では不登校について、当該年度間に連続又は断続して30日以上欠席し、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的な理由」による者を除く。）をいう」としています。

不登校については、児童生徒本人に起因する特有の事情によって起こるものだけではなく、児童生徒を取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要があります。

不登校とは、多様な要因や背景により、結果として不登校状態になっているということで、その行為を「問題行動」と判断してはいけません。

不登校の児童生徒が悪いという根強い偏見を払拭するとともに、現状に苦しむ児童生徒とその保護者に対して、原因や支援策を論ずるだけではなく、学校・家庭・社会が不登校児童生徒に寄り添い、共感的理解と受容の姿勢を持つことが、児童生徒の自己肯定感を高めるためにも重要です。

## (2) 千葉県公立小・中学校の長期欠席・不登校の現状

※以下、P1~5のグラフの出自：千葉県教育委員会（平成29年10月26日）「平成28年度『児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査』の概要（千葉県速報値）」

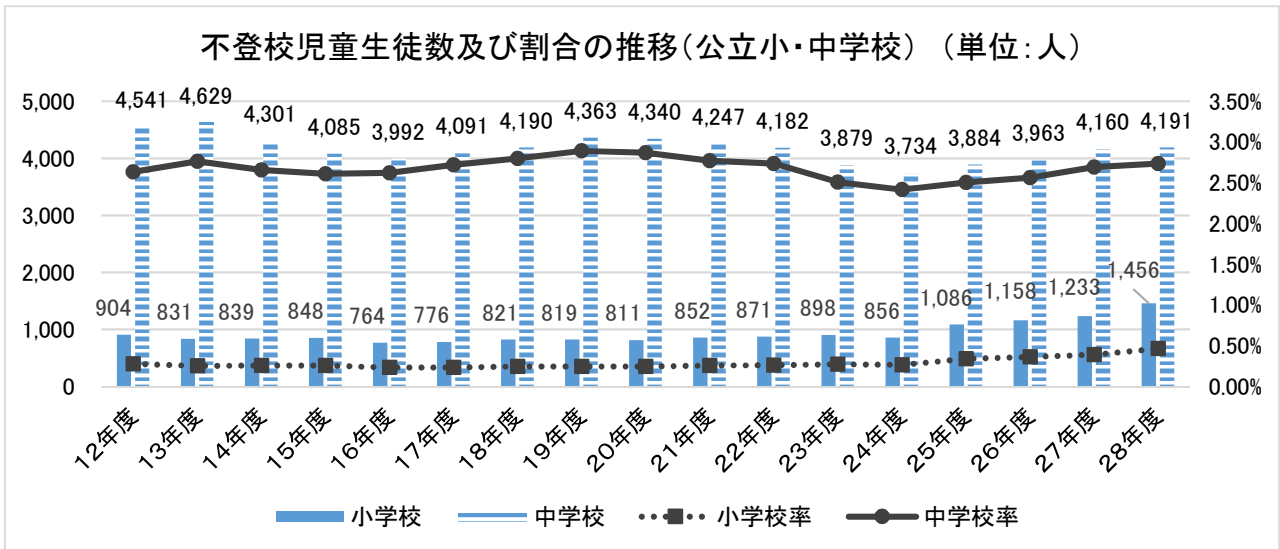
### ① 長期欠席の現状

長期欠席の理由	小学校			中学校			合計		
	総数 (人)	出現率	割合	総数 (人)	出現率	割合	総数 (人)	出現率	割合
病気	1,704	0.54%	43.14%	1,805	1.18%	27.44%	3,509	0.75%	33.33%
経済的理由	0	0.00%	0.00%	0	0.00%	0.00%	0	0.00%	0.00%
不登校	1,456	0.46%	36.86%	4,191	2.73%	63.70%	5,647	1.21%	53.63%
その他	790	0.25%	20.00%	583	0.38%	8.86%	1,373	0.29%	13.04%
合計	3,950	1.26%	100.00%	6,579	4.29%	100.00%	10,529	2.25%	100.00%

小学校における長期欠席児童数は3,950人で、全児童に対する割合（出現率）は1.26%です。最も割合の高い43.14%が「病気」による欠席です。「その他」は、「病気」「経済的理由」「不登校」いずれにも該当しない理由によるものですが、小学校においては、20.0%となっており、中学校の2倍以上の割合となっています。

中学校における長期欠席生徒数は6,579人で、全生徒に対する割合（出現率）は4.29%です。そのうち63.70%が不登校で、小学校に比べ、「病気」「その他」の割合は低い状況です。

## ② 不登校児童生徒数の推移

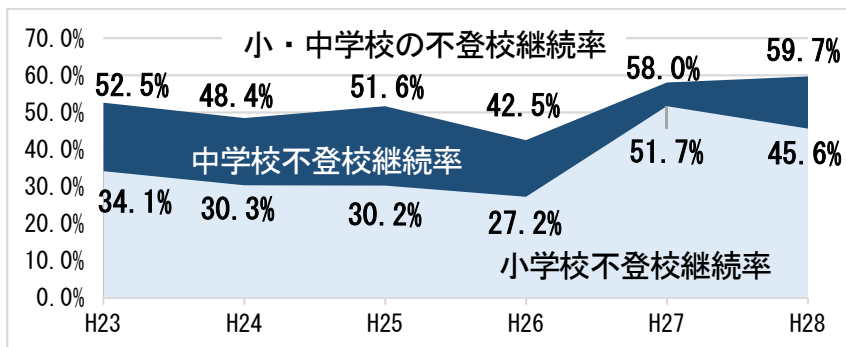


小学校の不登校児童数は、平成 25 年度に初めて 1,000 人を超え、それ以降増加傾向にあります。小学校においては 30 日以上欠席で不登校として計上するようになった平成 10 年度調査以来、平成 28 年度は最多となっています。中学校の不登校生徒数は、平成 17 年度に 4,000 人を超えましたが、平成 23, 24 年度と減少しました。しかし、その後増加傾向となり、平成 27 年度に再び 4,000 人を超えています。

不登校児童生徒は、小学校から中学校への移行期に大きく増える傾向があります。

## ③ 不登校継続率\*の変化

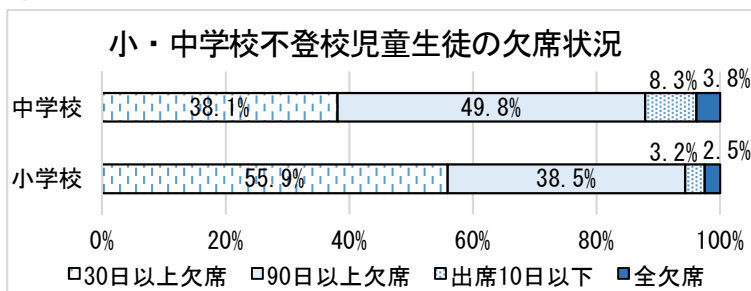
\*不登校児童生徒のうち、前年度も不登校であった者の割合(小学校 1 年生を除く)



不登校継続率は、平成 26 年度から上昇が見られます。このことから、継続して不登校になっている児童生徒が、増加していることが考えられます。

小学校と中学校を比較すると、中学校の方が不登校継続率は高い状況です。

## ④ 不登校児童生徒の欠席状況



小学校では、約 44%、中学校においては、約 62%が 90 日以上欠席となっています。さらに中学校においては、出席が 10 日未満の生徒が約 12%、全欠席については約 4%です。小学校から中学校への進学後に、不登校児童生徒の欠席日数が増加していることがわかります。

平成 28 年度は、小・中学校をあわせて 195 人の児童生徒が、全欠席の状況でした。

## ⑤ 小・中学校における不登校の要因

### 本調査における不登校の要因の分類

#### 【本人に係る要因】

- 「学校における人間関係」に課題を抱えている
- 「あそび・非行」の傾向がある
- 「無気力」の傾向がある
- 「不安」の傾向がある
- 「その他」

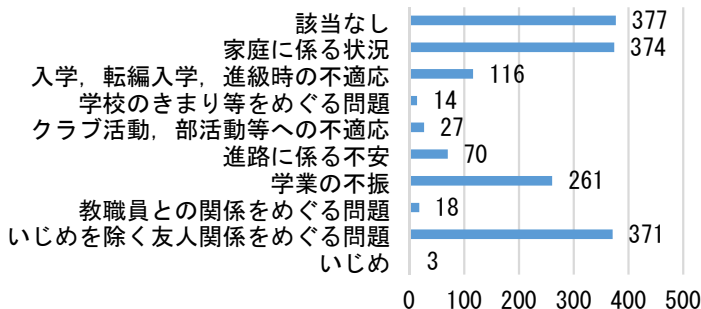
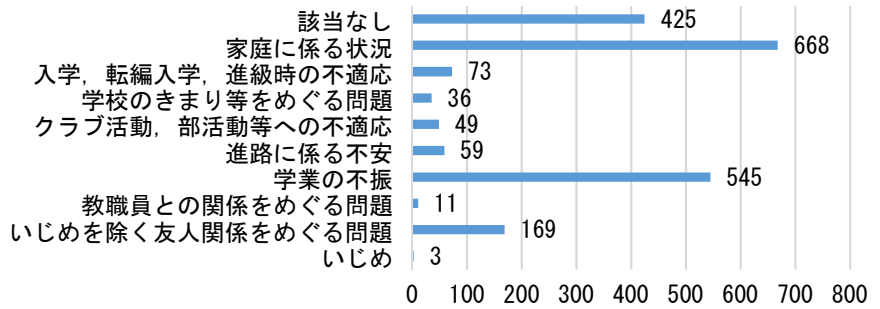
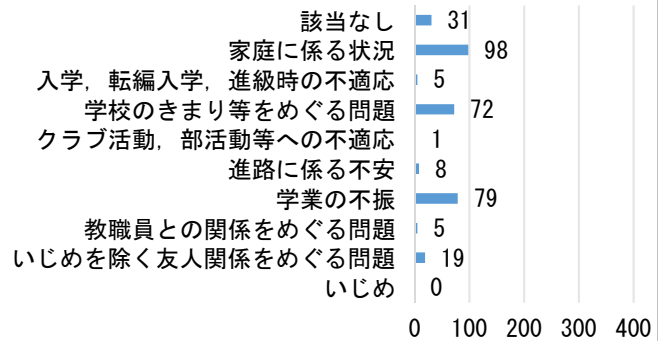
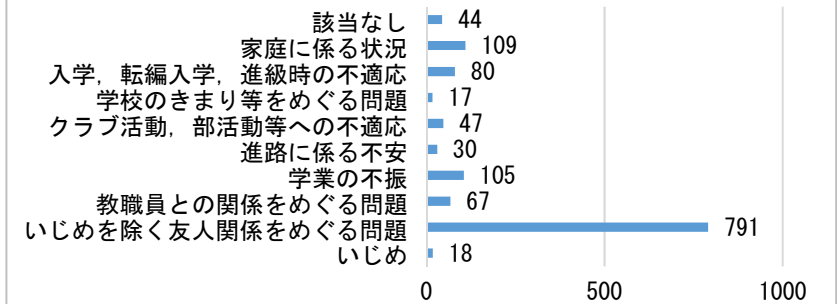
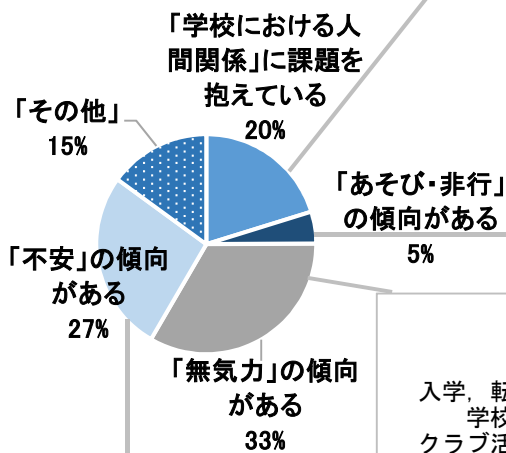
#### 【学校・家庭に係る要因】

##### 〈学校に係る状況〉

- いじめ
- いじめを除く友人関係をめぐる問題
- 教職員との関係をめぐる問題
- 学業の不振
- 進路に係る不安
- クラブ活動・部活動等への不適応
- 学校のきまり等をめぐる問題
- 入学・転編入学・進級時の不適応

##### 〈家庭に係る状況〉

本調査では、不登校の要因として「本人に係る要因」を左記のとおり 5 種類に分類しています。さらにそれぞれの要因の理由として考えられるものを「学校に係る状況」「家庭に係る状況」（「学校・家庭に係る要因」）として計上しています。



不登校の要因で、小・中学校における本人に係る要因は、「無気力」の傾向によるものが最も大きく 33%となっています。無気力の傾向のうち学校・家庭に係る要因の内訳は、家庭に係る状況及び学業の不振によるものが多くなっています。

「不安」の傾向の内訳は、いじめを除く友人関係や、家庭に係る状況が多くなっています。不登校の要因については、それぞれの児童生徒の状況が異なることから、ケース会議等で把握し、不登校児童生徒一人一人に寄り添った対応が必要です。

※円グラフ⇒「本人に係る要因」

(P1①表中「不登校」の児童生徒全員につき、主たる要因一つを選択)

※棒グラフ⇒「学校・家庭に係る要因」

(複数回答可)

### (3) 千葉県公立高等学校の長期欠席・不登校等の現状

#### ① 高等学校の長期欠席・不登校等の現状

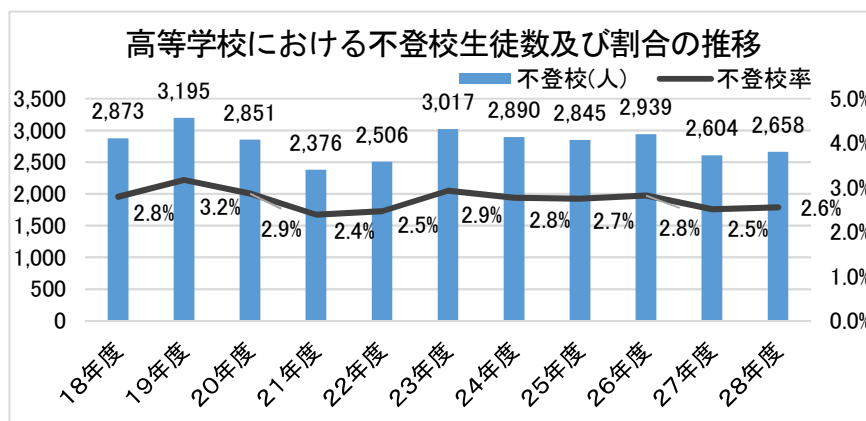
##### ア 長期欠席の現状

高等学校における長期欠席生徒数は3,579人で、全生徒に対する割合は3.44%です。長期欠席生徒の分類は次の表のとおりです。

長期欠席の理由	全 日 制			定 時 制			全 定 合 計		
	総数	出現率	割合	総数	出現率	割合	総数	出現率	割合
病 気	402	0.40%	16.93%	66	2.27%	5.48%	468	0.45%	13.08%
経済的理由	11	0.01%	0.46%	46	1.59%	3.82%	57	0.05%	1.59%
不登校	1,705	1.69%	71.79%	953	32.84%	79.15%	2,658	2.55%	74.27%
その他	257	0.25%	10.82%	139	4.79%	11.54%	396	0.38%	11.06%
合 計	2,375	2.35%	100%	1,204	41.49%	100%	3,579	3.44%	100.00%

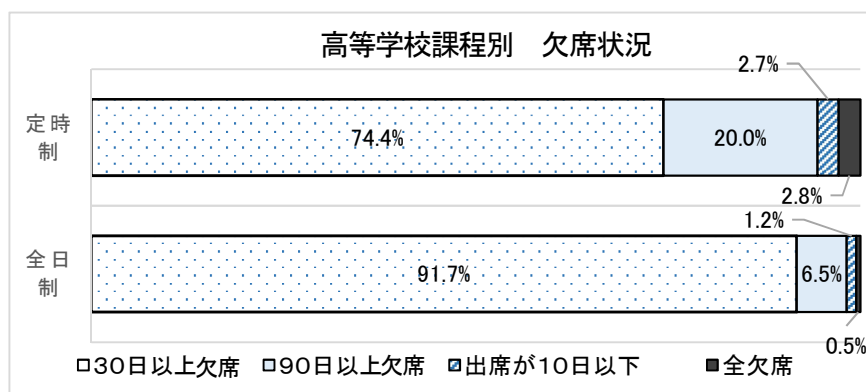
高等学校における長期欠席生徒のうち、74.27%が不登校で、高い割合となっています。家計が苦しく教育費が出せない、生徒が働いて家計を助けなければいけない等の「経済的理由」による長期欠席生徒は、1.59%となっています。

##### イ 高等学校における不登校生徒数の推移



高等学校における不登校生徒数は、減少傾向です。不登校率も、平成23年度より低下しています。とはいえ、本県における不登校生徒数は、全国(1.47%(出典：文部科学省(平成28年度)「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」))に比べると依然高い数値となっています。

##### ウ 不登校生徒の欠席状況



高等学校における不登校の状況は、小・中学校に比べ90日以上欠席している生徒は少なく、全日制と定時制を比較すると、定時制の方が、90日以上欠席が高い状況です。

全欠席の生徒は、全日制においては、0.5%(9人)、定時制においては2.8%(27人)です。

##### エ 不登校の要因

「不登校の要因」(P3参照)のうち、学校・家庭に係る要因を示す区分の上位3つは、学業の不振(19.6%)、いじめを除く友人関係をめぐる問題(15.9%)、家庭に係る状況(12.8%)となっています。なお、「いじめ」は0.3%です。また、本人に係る要因を示す分類のうち上位2つは、「無気力」の傾向

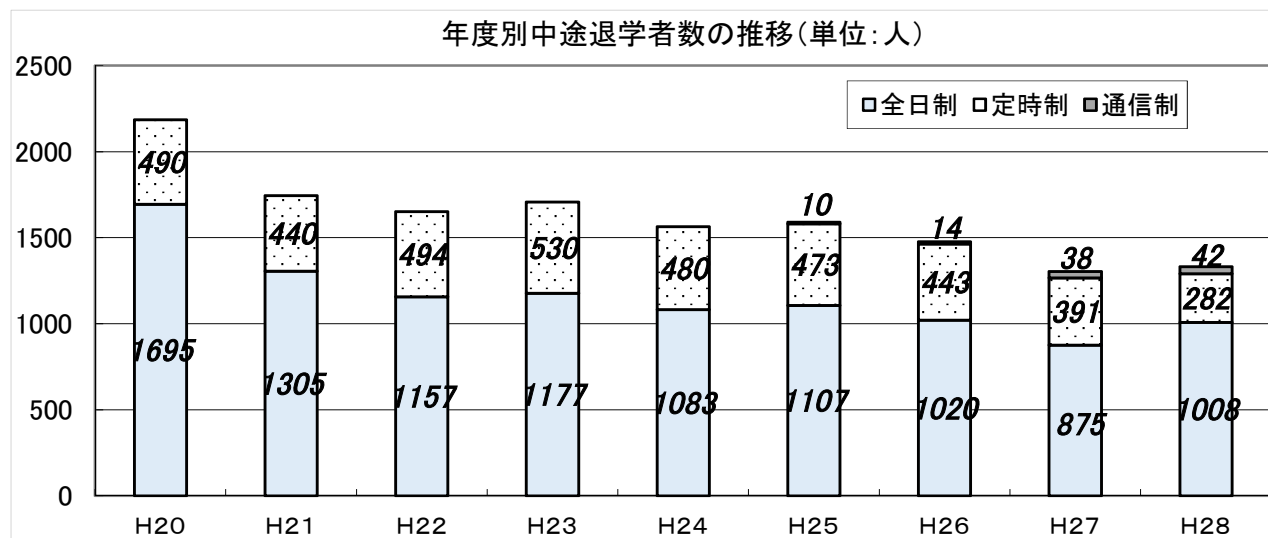
がある(41.8%)、「あそび・非行」の傾向がある(15.2%)となっています。

## ② 中途退学者の現状

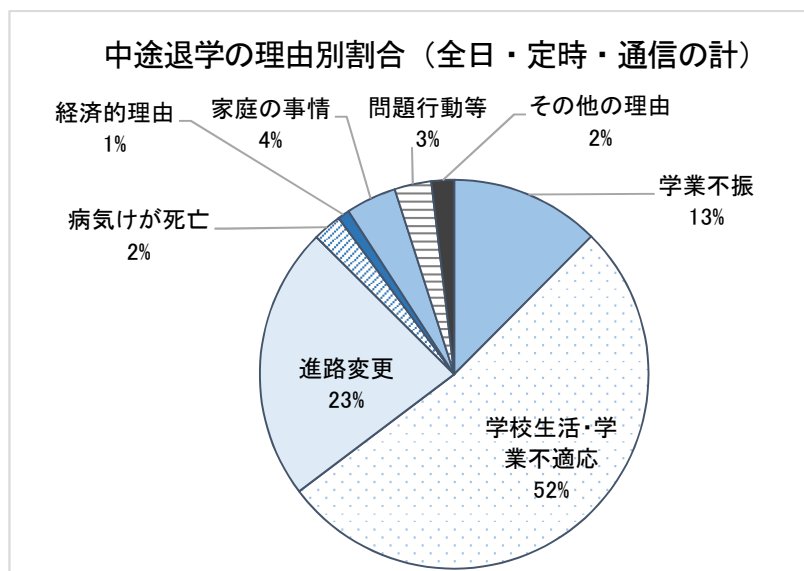
### ア 高等学校における中途退学者の現状

平成28年度の公立高等学校の中途退学者数は1,332人で、前年度の1,304人より28人増加しています。

平成20年度に比べ、全日制及び定時制ともに減少傾向になっています。通信制については、平成25年度より調査が始まり、増加傾向になっています。平成28年度は、定時制の中途退学者数が109人減少していますが、全日制が133人増加し、全体としては増加しています。



### イ 中途退学の理由



中途退学の理由は、学校生活・学業不適應が約52%と大きく、その内訳は、もともと高校生活に熱意がない(42.4%)、人間関係がうまく保てない(20.8%)、授業に興味がない(15.5%)でした。

次に大きな要因となっている、進路変更の内訳は、別の高等学校への入学を希望(46.9%)、就職を希望(28.7%)、その他(12.5%)となっています。